



図5 質問紙で測られた4変数の時間的推移：等質集団と異質集団の比較

績すなわち広義の生産性は乱数表集計作業では等質-異質集団間にほとんど差は見られないが、問題解決課題では等質集団の成績が3期を通してほとんど横ばいであったのに対して、異質集団の成績はこれより低いところからスタートして第2期に追いつき、第3期にはこれを超える上昇勾配を示している（ただし、第3期の差は有意水準に達

していない）。質問紙調査から抽出された4つの変数（課題への動機づけ、凝集性（1）：集団の誘引、凝集性（2）：集団のまとまり、集団の雰囲気）は、問題解決課題に取り組んだ集団において、乱数表の集計作業に従事した集団におけるより、一貫して高い値を示したが、等質集団と異質集団の間にはどの課題のどの時期においてもまったく